



ジェイコー  
**JCHO**

# 北海道病院だより

No.11



「糖尿病・内分泌内科  
井上医師による地域講演会」  
平成28年12月16日(金)開催

病院理念

地域の人々を中心とした質の高い医療・介護を提供し、  
地域から信頼される病院になります。

基本方針

- 1.一人一人の権利を尊重し、人間愛を基調とした医療・介護を行います。
- 2.安全を第一に説明と同意に基づく医療・介護を行います。
- 3.地域との連携を推進し、求められる医療・介護を行います。
- 4.地域の健康増進をめざし、保健予防活動を推進します。
- 5.地域医療機能の推進をもって医療・医学の発展に貢献します。



# 新年のご挨拶

JCHO北海道病院 院長 ふるや けん  
古家 乾

新年明けましておめでとうございます。

平成26年4月に全社連から地域医療機能推進機構(JCHO)という新しい組織に生まれ変わり、新しい組織名を覚えていただくことも必要でした。しかし、今年の4月からはJCHO発足から4年目を迎え、酉年にちなみば、ヒヨコから成鶏(鶏)になるまでの成長段階に入ります。様々な病院運営団体・組織がある中で、JCHO独自の存在意義を地域の皆様にご理解していただけるよう努力していく必要があると感じております。

昨年から今年にかけて、英国のEU離脱、米国大統領としてトランプ氏の就任予定などの動きがあり、今年の政治と経済に大きな変化があると予想されています。

医療界の中でも医療安全、医療経営、新規薬剤の費用対効果、医師の偏在と専門医制度など大きな問題が山積しております。

その中でやはり重要な位置を占めるのは、2025年(平成37年)問題といわれる、「団塊の世代」が75才以上になる社会構成人口の変化です。これに対応する医療の変化や対策が早急に必要とされ、病床機能報告制度に基づく地域医療構想が求められました。北海道の地域医療構想も昨年末に策定されています。札幌2次医療圏の、2015年7月1日現在の病床機能報告制度に基づく稼働病床数は33,266床(高度急性期4,185床、急性期14,591床、回復期2,131床、慢性期11,730床、その他629床)であるのに対して、2025年の推定病床数は35,786床(高度急性期3,913床、急性期10,951床、回復期8,923床、慢性期11,999床)となっています。即ち急性期以上の病床数を約4000床近く削減し、代わって回復期病床を約6800床増加させなければなりません。

一方で総務省の救急医療のデータを見ますと、救急要請の出動回数は増加の一途をたどっていますが、傷病程度別の搬送人員構成比を見ますと重症(平成元年14.3%⇒平成26年8.7%)が減少し、中等症(平成元年35.2%⇒平成26年40.2%)が増加しています。さらに年齢区分の搬送人員構成比を見ますと成人(平成元年60.5%⇒平成26年35.8%)が減少し、満65才以上の高齢者(平成元年23.4%⇒平成26年55.5%)が倍

増以上になっています。また外傷より内因性の疾患が増加しています。従って、中等症の合併症をもつ高齢者の救急要請が増加していくものと思われます。そこに総合診療医や総合内科医が求められるのも必然です。急性期病院として高度の専門性を維持することは必要ですが、specialistとgeneralistのバランスの良い人材育成が不可欠になります。



新年早々、一般的に65歳以上とされている高齢者の定義について、日本の二つの医学会が、75歳以上とすべきと提言しました。65~74歳は「心身とも元気な人が多く、高齢者とするのは時代に合わない」として、新たに「准高齢者」と位置づけ、90歳以上は「超高齢者」と定義しています。

当院だけですべての疾患に対応できる訳ではありませんが、時代や社会背景によって医療に求められる変化に対応すべく、職員が一丸となって地域から信頼される病院・施設を目指して参りたいと思っております。

皆様のご多幸を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

## 健康教室のご案内

当病院では、健康への正しい知識を深める機会として、毎月2週にわたって健康教室を開催しております。

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等が分かりやすくお話しします。  
どなたでも無料でご参加いただけます。



場所 外来棟1階ホスピタルモール  
(エスカレーター裏側)

時間 11:30~12:00

予約 予約はいりません。  
どなたでも無料でご参加いただけます

※開催日など詳しくは、ホームページやチラシをご覧ください。

外来の待合場所が会場です

整形外科

中央  
処置室

エスカレーター

会計窓口

会場はこちら

再来  
受付機

正面玄関



## 平成29年 新年のご挨拶

JCHO北海道病院 副院長 ひろせ 広瀬 たかおき

明けましておめでとうございます。平成29年の新年の挨拶をさせて頂きます。私は北海道社会保険病院時代から数えると副院長としてもう16年目になります。以前に紹介させて頂いておりますが当院は、平成26年4月から発足した新しい法人の地域医療機能推進機構（JCHO：ジェイコー）の運営の下、JCHO北海道病院として再スタートしました。さらに昨年10月からは新院長として古家 乾先生が就任され、職員一同さらに信頼され安全な医療を提供すべく邁進しております。昨年夏には循環器内科医の開業に伴い循環器科は残念ながら一時縮小した状態ですが今年から徐々に復活させていく予定です。一方、同時期に膠原病内科部長として北大病院から来られた堀田 哲也先生が、今年から新設された腎・膠原病センター長に就任されました。堀田先生は関節リウマチや各種膠原病に対する最新治療や原因不明熱の鑑別診断などの専門家ですので是非ご相談ください。

今年もよろしくお願い申し上げます。



## 年頭のご挨拶

JCHO北海道病院 副院長・呼吸器センター長 あきやま やすし 秋山 也寸史

明けましておめでとうございます。昨年末には記録的な大雪に見舞われた札幌ですが、新年は穏やかにお過ごしになられたこととお慶び申し上げます。地域包括ケア担当の副院長として、札幌市内の諸施設、病院及びクリニックからさらに信頼される病院となります様、ご紹介をお断りせず、またご紹介をいただいてからお返事までの時間を極力短くする運動を全ての診療科で行っています。また呼吸器センター長として、肺癌、肺結核、重症呼吸不全等疾患にかかわらず、全てのご紹介を迅速にお受けし、最新の診療を行う方針をこれまで同様に継続します。何かお気づきの点がございましたら、率直なご意見をお聞かせください。本年も地域に質の高い医療と介護を提供する様、院内各職域の力を合わせて職務に励んで参りますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 新年のご挨拶

JCHO北海道病院 健康管理センター長 片岡 賢治

かたおか けんじ

新年明けましておめでとうございます。年末の札幌は記録的な大雪に見舞われましたが、新しい年となり、お元気でお過ごしでしょうか。

健康管理センターは健康診断を主な業務としている部門です。放射線技師、臨床検査技師、保健師・看護師、医師、事務スタッフが日々の業務を担当しています。自覚症状がなく、元気に毎日過ごしている方でも、実際に健康診断を受診してみると、様々な問題点が見つかることがあります。食生活の偏り(食べ過ぎ、塩分・糖分・脂肪分の取り過ぎなど)、肥満、喫煙などの生活習慣上の問題点が長い期間続くと高血圧症、脂質異常症、糖尿病、狭心症・心筋梗塞などの生活習慣病につながっていくことがわかっています。もちろん遺伝的要因も無視出来ませんが、これは自分では変えられません。生活習慣の偏りは自分では気がつきにくいものです。健康診断の結果を見て、自分の生活習慣を振り返ってみることは、大きな意味を持ちます。生活習慣を自ら変えていくことは容易ではありません。医師・保健師・栄養士などのスタッフが健康診断の結果と一緒に考え、健やかな生活へと変わるために手伝いができればと思います。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。



## 新年のご挨拶

JCHO北海道病院附属介護老人保健施設 副施設長(病院事務部長) 小野寺 正逸

おのでら しょういつ

明けましておめでとうございます。新年にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年末は記録的な大雪に見舞われ、札幌市も50年ぶりの積雪を記録し、飛行機やJRなどの交通インフラが完全に停止する事態になりました。幸いにも正月三が日は穏やかな日が続き、このまま春が来てくれないかと淡い期待を抱いているところです。

「医療と介護の連携」の必要性はかなり以前から言われてきたところですが、「団塊の世代」がすべて75歳以上となる、いわゆる2025年問題を前に、医療介護制度が激変しているのは皆様もご承知のことだと思います。平成26年度から病床機能報告制度が開始され、昨年12月には「北海道地域医療構想」が決定されたところです。

平成30年には診療報酬と介護報酬の同時改定が予定され、「地域包括ケアシステム」の構築に向かった動きが加速されるようです。

JCHO北海道病院は健康管理センターを併設し、介護老人保健施設とともに保健・医療・介護をシームレスに提供してきました。「地域包括ケアシステム」構築にあたって、病院・健康管理センター・介護老人保健施設がそれぞれの組織の壁を取り払い、今まで以上に一体となって取り組むことは勿論ですが、地域の医療機関や介護施設、行政機関などとの連携を更に強化することにより地域の皆様に信頼される組織作りに当たりたいと考えております。

本年も皆様にとって良い年になりますよう祈念いたします。

## 症例検討会のお知らせ

JCHO北海道病院では、地域の先生方との研修・交流の場として症例検討を中心とした勉強会を開催しています。

- 第8回 豊平区糖尿病ブルーサークル**  
 日 時:平成29年2月10日(金) 19時00分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂

- 第45回 札幌南部呼吸器懇話会**  
 日 時:平成29年2月14日(火) 18時30分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂

- 第45回 リバーサイド消化器懇話会**  
 日 時:平成29年3月14日(火) 18時30分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂

詳細は地域連携相談室までお問い合わせください。

## 災害救急指定日

平成29年2月14日(火)・2月27日(月)  
 3月14日(火)・3月28日(火)

※災害救急指定日は、やむを得ぬ事情により変更する場合があります。毎日の新聞紙等でご確認ください。



## JCHO北海道病院

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18  
 TEL 011-831-5151(病院代表) URL <http://hokkaido.jcho.go.jp>  
 <医療機関専用：地域連携相談室直通>  
 TEL 0120-515-830 / FAX 011-815-1005



↑QRコード読みで  
病院ホームページへ



日本医療機能評価機構  
認定第JC315号